

平成23年2月17日(木)

午後1時30分 開会

事務局 失礼いたします。それでは、ただ今から平成22年度第5回行財政改革審議会を開催いたします。

本日の出席人数は10人でございます。従いまして、赤磐市行財政改革審議会要綱第6条第2項の規定により、委員の過半数ご出席をいただいておりますので、この会議が成立したことを報告させていただきます。

それでは、会長に開会の宣言、ごあいさつをいただきまして、引き続き会議の議事進行をよろしくお願いいたします。

議長 ただ今から赤磐市行財政改革審議会会議運営規程第4条第1項の規定により、平成22年度第5回赤磐市行財政改革審議会を開催いたします。

皆さん、こんにちは。

早いもので、今回の審議会が今年度最後の審議会ということになりました。今年度は公の施設の見直しの進捗状況を見るということもありましたけれども、今年度の大きな仕事は支所のあり方についての基本的な考え方をまとめるということを行ってまいりました。この支所のあり方といいますのは、皆さんにお世話になりました、昨年度、大綱をまとめましたけれども、この大綱の理念を実現する上で非常に重要なものだというふうに位置づけられます。といいますのは、この行財政改革の理念といいますのが、第一次行革では財政のスリム化を図るということで、一般財源ベースで18億円の削減ということの一つの大きな目標としながらスリム化を図ってきたわけですが、第二次行革の大きな目玉というのは、攻めの行革ということで、スリム化を図った上でいかに市民の生活の利便性を高めていくのか、こういうことをどうやって図っていくのかということが大きな課題となっております。そのために、それを実現するために3つの一体感の醸成ということを掲げたわけですが、1つは中心と周辺です。合併すると必ず中心と周辺がありますけれども、その中心と周辺の一体感の醸成。そして、2つ目が、合併して市民の方、4つの町に住んでおられたわけですが、それが一つの市になるわけですから、そういう中で、市民の方と行政の一体感の醸成。そして、3つ目は、4つの町がまとまった行政組織内部の一体感の醸成ということで、この3つの一体感の醸成をなし遂げるというのが今回の行革の理念になります。

この支所のあり方といいますのは、この3つの一体感の醸成の一番基盤になるものだというふうに位置づけられまして、中心と周辺の一体感ということはもちろんでありますけれども、住民と行政のつながり、それから支所といいますのは、やっぱり本庁との役割分担というのがありますので、そういう意味では行政組織内部の一体感ともかかわってまいりまして、そういう意味ではこの支所のあり方は非常に3つの一体感を同時に考えるということでは非常に大事な、民主党政権がよく1丁目1番地というような言い方をいたしますけれども、1丁目1番地の

具体的なものだというふうにお考えいただきたいと思います。そういう意味では、そういう1丁目1番地の、第二次赤磐市行革の1丁目1番地の本丸についての基本的な考え方を、今日、提言としてまとめるということは非常に意義のあることでありまして、今日が実り多い最後の議論になるということをおも願っております。今日も、何とぞ御協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、ここで赤磐市行財政改革審議会の会議運営規程第6条の第2項の規定によりまして、会議録の署名を2名の方をお願いすることになっております。本日は、委員と委員をお願いしたいと思いますけど、よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、よろしくお願いいたします。

それでは、今日の会議次第に基づきまして、議事進行をしてみたいと思いますが、まず(1)の平成22年度提言案についてでありますけれども、これにつきましては私のほうから少し説明をさせていただきたいというふうに思います。

お手元に、会議次第の2枚目、そこに本日審議いたします提言の案の中身が載っておりますけれども、これについてちょっと説明をさせていただきたいというふうに思います。

前回の1月24日の審議会で、出席されておられた委員の皆様から、お一人ずつ支所のあり方につきましてお考えをお聞きいたしまして、それに基づきまして、私が案を作成させていただきました。皆さんに郵送でそれがお届けされたかと思っておりますけれども、そこから皆さんからいろんな修正案が参りまして、それをもとにもう一度私のほうで修正をさせていただきましてつくらせていただきましたのが、今皆さんがご覧いただいております提言の案の中身であります。ここではどなたがどういうことを言われたかという話はいたしませんけれども、基本的な考え方ということで、ちょっと説明をさせていただきますが、提言の中身、1、2、3という形で箇条書きになっておりますけれども、まず1番のところでは、支所のあり方についての基本的な枠組みと申しますか、それをまず提示しておりまして、ここでは財政の視点はかなり大きなウエートを占めているわけではありますが、支所の現状維持というのは困難でありまして、支所機能の縮小ということは避けられないということで、まずこれを提言の1番目に持ってきております。これは、皆さん前回の審議会でそれぞれ御意見をいただきまして、支所の機能の縮小という基本方向については皆さん御同意いただいたというふうに理解しておりますので、このような形で書かせていただきました。

それから、2番でありますけれども、しかしながら、やはり支所と申しますのは、非常にその地域において重要なものでありますので、財政効率の視点だけでは論じられるものではないということで、ここではさっきの(1)が財政の視点から提示されているものに対して、(2)は地域の視点から支所のあり方を提言しておるものでありまして、過疎化、高齢化が進んでいる中で、やはりこの支所の見直しに当たっては、市民のニーズ、要望を聞きながらやっていただきたいということが(2)では打ち出されております。

それから、3番のところでありますけれども、ここでは、今回提言をして新しい支所機能ということで提言をしているわけでありまして、ここでは機能を縮小するわけですが、しかしその中で生活の利便性などが失われては元も子もないわけでありまして。ですから、この縮小された支所の機能を補完するという形で、市民の方などが入っていかれまして、協働の仕組みづくりというものをここでは打ち出していきたいという中で、まさにその中で市の拠点をするというようなことでありまして、ここが今回の一番大きなポイントかと思っておりますけれども、こういう考え方で、周辺地域の生活の利便性を確保したいなということになります。基本的には、皆さんの御意見をお聞きしながら、そして私のたたき台を皆さんの御意見の中で修正していただきまして、皆さんの御意見ができる限り反映できるような形で修正をさせていただきました。貴重な御意見どうもありがとうございました。

ここで、こういう形で支所のあり方ということで、基本的な考え方、理念をこういう形で書かせていただきましたけれども、これでよろしいでしょうか。

はい、どうぞ。

委員　いいんですけれども、先ほどもちょっと小耳に挟んではおったんですが、2番の2行目の真ん中ぐらいに、以前からも文言として使っておりましたが、限界集落、この4つの文字については、小規模高齢化集落かな、岡山県も聞こえが悪いから限界集落と呼ぶのはやめようというふうなことで、僕ちょっと小耳に挟んでましたもんで、岡山県が限界集落という言葉を使わずに、小規模高齢化集落という言葉に変えようというふうに、指導はしているかどうか知りませんが、であるならば、赤磐市のこの提言についても、その言葉が使われたほうがいいんじゃないかなとは思いました。

議長　今の御意見、提言の(2)ですけれども、2行目、いわゆる限界集落というところなんですけれども、私も前回ちょっとお話をしましたけれども、余りいい言葉だと思っておりません。ですので、いわゆるというふうな言い方をちょっと書かせてはいますけれども、もし皆さんの中でちょっとこの言葉に抵抗があるということであれば、今、委員がおっしゃったように、今、小規模高齢化集落というふうな言葉もございます。その言葉に変えてはいかがかということなんですけれども、どうでしょうか。

委員　初めのうちは限界集落というように呼ばれていたと思うんですけど、ほかの社協関係、いろんなところでも言い方を大体がそのように変えて、今言っていると思います。文章の中でも、それから私たち、いろいろな会合の面でも、限界集落という言葉でなくてそういう言葉に今変わってきているんで、私もそのほうがいいかなというように思いますが。

議長　そうしますと、限界集落はやはりちょっと抵抗があるということですので、ここは小規模高齢化集落ということで、もう一度確認しますと、2行目です。「過疎化や高齢化が進み、小規模高齢化集落が増加するなどの」というふうな形で変更させていただきますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 ありがとうございます。じゃあ、そういう形で変更させていただきます。  
事務局の方、すみませんがよろしく願いいたします。  
他によろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議 長 そうしますと、御意見ないようですので、これをもちまして、本年度の提言と  
いうふうにさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、提言書を市長にお渡しするのに少し準備が必要ですので、今の文言もちょっと修  
正いたしますので、何分ぐらいでよろしいでしょうか。5分あればできますか。

そしたら、1時50分まで休憩をさせていただきます、50分から再開したいと思います。

午後1時43分 休憩

午後1時50分 再開

事 務 局 それでは、準備が整いましたので、会長から市長へ提言書の提出をお願いいた  
します。

会長席の前のほうへお進みください。

会 長 （提言書朗読）

事 務 局 ありがとうございます。

お席のほうにお帰りください。

なお、本日の提言書は市長のお礼のあいさつの後、皆様のほうに配付させていただきます。

それでは、市長よりごあいさつを申し上げます。お願いいたします。

市 長 委員の皆様には長時間にわたりまして御審議いただきましてありがとうございます。  
本年度は、赤磐市における支所及び出張所のあり方について基本的な考え方を慎重にか  
つ熱心に御審議いただきましてありがとうございます。

赤磐市においても、確実に少子化また高齢化が進んできております。そして、財政について  
も厳しい状況が続いております。そういう中で、支所等の現状維持というのは困難であり、職  
員の削減、そして機能の縮小などは避けて通れないところでございます。今後においては、市  
民の皆様に対するサービスを低下させることもなく、先ほど審議会のほうからいただきました  
提言を十分に踏まえ、総合計画で掲げております活力ある住みよい、住みたい赤磐市を目指し  
て、赤磐市全体の一体感の醸成を積極的に推進してまいりたいと思っております。

最後になりますけれども、委員の皆様には1年間に渡りまして慎重に御審議をいただき、ま  
た貴重な御提言を賜りましたことを心から感謝申し上げます。引き続き、赤磐市政への  
御協力、御理解をよろしく願い申し上げます。これでごあいさつとさせていただきます。大  
変ありがとうございました。

議 長 それでは、今、赤磐市長に提出いたしました提言につきまして、これがその文

書ですので、どうか御確認をいただきたいというふうに思います。ありがとうございました。

それでは、その他につきまして、事務局から何かございますでしょうか。

事務局 それでは、本日お手元のほうにお配りいたしております資料の3枚目のほうをご覧いただきたいと思います。

前回の第4回審議会でご求められておりました地域別の年齢層別の人口を、平成22年と17年とを比較したものでございます。

1枚おはぐりください。

平成22年4月1日現在の住民基本台帳から地域別に65歳以上のひとり世帯を抽出したものでございます。赤磐市全体では、65歳以上のひとり世帯が2,225世帯となっています。この2,225世帯には、施設に入所されている方や赤磐市に住民票を残して施設に入所されている方、あるいは敷地内に御家族がいらっしゃるお一人の方、ひとり世帯の方も含まれております。

本日の資料の説明は以上でございます。

議長 今回の事務局からの説明は、前回、高齢者のひとり暮らしの世帯がどれぐらいの状況なんだろうということ御質問がありましたので、その回答ということで、今お示しをしております。これは来年度、支所のあり方などを考える上で非常に重要なデータになるかと思えますけれども、いかがでしょうか。何か御質問などありましたら、どのようなことでも結構ですのでお願いいたしますと思いますが、よろしいでしょうか。

委員 よろしいですか。

議長 はい、どうぞ。

委員 この表はもう、一般に公表されておるといふふうに理解しておいていいですか。

議長 どなたでもよろしいです。お願いいたします。

事務局 一般には公表されていないと思います。この審議会用につくったデータです。

議長 公開してもよろしいわけですね。はい。他にいかがでしょうか。

これを見ますと、非常にひとり暮らしの高齢者の方が、地区において20%を超えるようなところもかなりありまして、非常に深刻な状況だなというのがわかりますけれども、こういうところをどうするかということが、今後問われてくるというふうに思います。

他に、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長 それでは、以上をもちまして、本年度、赤磐市の行財政改革審議会の会議はすべて終了いたしました。皆さん、どうも1年間御苦労さまでございました。

おかげをもちまして、今日はこのような提言をまとめることができました。先ほども言いましたように、この提言は、基本的な考え方ということで、細かなことは全く議論しておりませ

ん。しかし、先ほど言いましたように、昨年度まとめましたこの大綱の理念である一体感の醸成を考える上で非常に大事なベースになるものでありまして、来年度はこれをベースにして、具体的な話を皆さんとともにしていきたいと思います。来年度は、今年度以上に厳しい坂道が上がらなければいけないというふうに私は覚悟しておりますけれども、皆さんもぜひ、今日決まった3つの提言をベースにいただきながら、具体的にこの赤磐市をどうしていくのかということをぜひ検討していただきまして、来年度また皆さんから活発な御意見が寄せられることを願っております。本日はどうもありがとうございました。

事務局 本日は皆様ありがとうございました。

本日の会議は以上ですべて終了といたします。

委員の皆様には1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

午後2時00分 閉会